



第15回研究成果発表会を開催 日本建設技術

土 木工事を手掛ける日本建設技術（佐賀県唐津市、原裕社長）は4月14日、唐津シーサイドホテルで第15回研究成果発表会を開催した。来賓と全社員が集まり、同社における1年間の研究成果を聞いた。

開会にあたり、原社長が「良い会社とは良い成果品を生み出す会社のこと。社員が技術力を上げ、創造力をつけることが会社を伸ばす」とあいさつした。また、来賓代表として福岡資麿参議院議員が「貴社には防災や環境保護の面で地域をけん引してもらいたい」と述べた。

成果発表ではまず、原社長が「2017年度のあゆみ及びラフト&パイル工法とミラクルソルの併用」というタイトルで発表した。続いて、情報技術



課の内山佳樹係長が「港湾構造物の空撮について」、建設事業本部の広津大治主任が「老朽化した集水井の機能回復工事の事例」、企画開発戦略本部の川副紀和主任が「中国珪砂を用いたミラクルソル製造について」という題で発表した。

発表を受け、前佐賀大学低平地沿岸海域研究センター長の荒木宏之氏が「個人の技術と企業の製品力はリンクしている。それを感じることができた」と講評した。その後、同社をはじめ、グループ会社の社員が表彰された。